
お店の悩み

二天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お店の悩み

【Nコード】

N4862K

【作者名】

二天

【あらすじ】

僕が店への悩み。

それは一体どんな悩みなのだろうか？

(前書き)

なんかおかしくなっていました・・・
心してお読みになってください。

リンゴ、バナナ、キャベツ。

僕の脇には様々な食べ物が置いてある。

ここはこの地域ではかなり大きいほうのスーパー、その中の食品売り場に僕はいた。

このスーパーには今いる食品売り場のほかにもいろんな所がある。

- ゲーム売り場では未来を背負うちびっ子達が目を輝かせながらゲーム機を眺めていたり、洋服売り場では明らかにおば様であるお姉さま方が服の値段を見て火を噴いている。

このほかにも恋人定番のファーストフード街、おじさんたちの憩いの場であるゴルフ売り場、学生達がついドラマ的瞬間を期待してしまいうエレベーターなど、それぞれの年代にあった全てのものがこのスーパーにはある。ちなみにこのスーパーは2階建てだが今まで記してきた事は全て1階の話で、2階には車がくつろぐ場所、駐車場になっている。

さて、スーパーさんの説明はこれくらいにしよう。なんたって別にこのスーパーさんとは仲が良いわけではないし、むしろ悪いほうなのだから……

なぜ悪いかって？それは後々わかってくるだろうからここでは内緒、それよりも今僕の周りにあるものを記していく事にする。

まずここは果物ゾーンらしい。左右にはたくさん果物が置いてある。

まず右側から、みかん、レモン、グレープフルーツ、ちょっと奥にはパイナップルがあるぞ。……パイナップルが食べたいがちょっと僕の財布力では無理だ……残念。

左側は、ぶどう、いちご、メロン、スイカも売っている。そしてち

よつと奥にはみかんだ。しかしこれは右側にあるみかんよりちよつとばかり高級らしい。

右も左も果物祭り。見ていてこつちまで踊りたくなるような新鮮な果物。

しかし買うわけにはいかない。買ってしまつては目的のものが手に入らなくなるからだ。

僕の周りでは洋服売り場はもう飽きたのか、明らかにおば様であるお姉さま方がいて、無残にも元気な果物たちを握力60位はありそんな手で掴んでは買ひ物がごへ放り投げている。

果物視点で記せば、

「恐い顔をした人がコツチを見てるよ、買われたくない！！この人だけには絶対買われたくない！！え？ちよつとまつて？手を伸ばしてきた！？こつちくる！！うわうわ最悪くんなくんな……」

「ぎゃあああああ」

とまあこんな感じだろう……

みなさん、あの可哀想な果物君たちを眺めている事は罪な事でしょうか？また可哀想だと思つて罪な事？僕にはこの景色を見て、後でこの果物たちがおば様たちに噛み千切られていくところなんて想像できません。したくありません！！これつて、罪な事なんでしょうか……

僕がどんな思いでこの果物ゾーンを出たか、記すまでもあるまい……

果物ゾーンを脱出してみたら次はお魚ゾーンだ。

ああ、僕は恵まれていないのか……よりによってさっきの光景を見た次に死骸の景色……

もう嫌になつてくる。いや、だからといってここで記すのをやめる

わけには行かない。なんとしてでも最後まで書き上げなければ！！
しが・・・お魚ゾーンには、かの有名な大海原を旅していたお魚諸
君らが安らかに眠っている。

うん値段も安い。それなりに冷凍設備も整っていてお魚諸君らとし
ては文句なしに眠りにつけるだろう。

・・・・・・と思ったのだが、やっぱりここにもおば様達が侵食し
ている。もういいって！！

(ちなみにもうこの時点でお姉さまと呼ぶ事をやめにする)

ここについてはこれ以上記すまでもあるまい。なんだか僕までおば
様化してしまいそうな気分だ。

僕はうるうると店の中を旅している。あるものを求めて・・・ある
もの、それはなにか？もうそろそろ話してもいいだろう・・・
あるものとはつまり「飲み物」だ。

いや、ただの飲み物ではない。近未来的な、そう炭酸飲料だ。名か
らしてかっこいいではないか。

その近未来的な飲み物を求めて今僕は旅をしていたのだ。

今まで旅してきた中では様々なことを目にしてきた。語るまでも
ないが果物虐殺、お魚天国・・・その他にも、これは語って
いなかったがケチャップ争い、これはおば様たちの戦争であったが
すごいったらありやしない、文字ではとても現せない、とにかく凄
かった。それにエビフライセール争い。これもおば様たちの戦争・
・・・もうここまで記せば分かると思うがスーパーと言うところ
はおば様達が猛威をふるう戦場なのだ。

その戦場の中にか弱い男、僕が炭酸飲料という近未来的な飲み物を
探し回る。

僕、結構かっこいいではないか・・・

そんなことを語っているうちにとうとう着いた。

われらが求めた飲み物売り場。こんなに嬉しい事はほかにあるだろうか？数々の試練を乗り越えてついにたどり着いた。もう一度言うがこんなに嬉しい事が他にあるだろうか？

言うまでもなく僕は炭酸飲料にしがみついたさ、ちよつと贅沢をしてただの炭酸ではなくブドウ味の炭酸飲料を選んでやったさ。へん！！

あとはお金を払うだけ。ふっふん
やったやった！！

あ………そうだった………

レジへはあつという間についた。着いたのは良いけれど………
嘘でしょ………もう嫌になっちゃう。

僕は何を見たのか？みなさんに語るのをもう少し延ばしたくなるが………
………言ってしまうおう。

何を見たのか、それは………20台くらいあるレジに………
…おば様達がいっぱいになって並んでいる！！！！

………呆れた………

しかたがない。並ぶしかないではないか………

手元ではブドウ味の炭酸飲料が笑っている。
ダッセーなんて笑っている。嫌になる。

おばさまたちも笑っている。やっと家に帰って飯が食えるわ、こん

な事でも思っているのであらう。
おば様め、最後まで・・・・・・・・

結局かなり並んだ後にやっと僕の番が来たときにはもう疲れ果てていた。

レジの本物のお姉さんが天使に見えるのは気のせいだろうか？いやきっと気のせいではないだろう・・・・・・・・

「147円になりまーっす」

そうですね。僕は素直に財布の中の小銭2枚を天使さんに渡す。

これでやっと・・・・・・・・

「おつりとレシートになりまーっす」

そうして天使さんはレシートとおつりを・・・・・・・・そうだった！
！まだ試練はあったのだ。

僕は一気に目が覚めた。最後の試練、それはレシートに乗ったおつりをいかに上手く財布に収めるか。

これまでに僕はたくさんのおつりを地面に落としてきた。落として笑われてきたのだ。

本日こそおつりの受け取りは成功させねばなるまい。

レジの人の手にはレシートとその上にあるおつり。

僕はおそろおそろ手を伸ばす。

手が震える。緊張から来るものだろうか？レジの人は冷ややかな笑

みを浮かべている。

そしてついに僕の手はレシートに触る。触ったと思ったら遠慮なくレシートがこっちに乗り移ってくる。

このときの心臓の動きはmaxを超えていた。

僕の手はそつと短くなる。手がプルプル震えているのは記すまでもない。ただその手の上でおつりはお祭り騒ぎ。

もう決めるしかない。一気に行くしかない。頼む。財布に収まってくれ。

覚悟を決めた。

……次の瞬間、僕はおもいつきり笑っていた。

上手く言ったのだ。最後の試練は無事に乗り越えた。これほどにも嬉しい事は……。さっきもどこかで言ったような気がするがまあいい。

僕は踊りながら店の外へと向かっていった。

(後書き)

いかがでしたでしょうか？

この作品は、前に書いた「まあ・・・そんな道もありますよ・・・」の続編みたいな感じで作ったのですが、なんか微妙なできになってしまったような気がします・・・

感想などいただけると嬉しいです。

お店の悩みを読んでいただき、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4862k/>

お店の悩み

2011年1月13日07時31分発行